

そうか有名なのか

一月三十日 木曜日 そうか有名なのか

一時間目の社会の時、始まったとたん、
六時間目終了迄、先生が問われる時以外、
僕が一言も喋らなかつたら、
田中が僕に五十円くれると 言った。

もし、僕が喋ったら 田中に一度喋るごとに、
五円を一回につき 払わなければならぬ、
と言うかけをした。

僕は 授業中、休み時間を通じて よく喋る。
それで、田中は僕が絶対黙っていることは
出来ない と確信していた。

僕は いかに 自分が 自制できるかを 試すつもり。

しかし、まず、初段階として、
金でつると やりやすくなるだろうと
思い、金をかけたのだ。

僕は どうしても言いたいことがあると
予め用意してある紙に書いて、友達に見せた。

まるで、ろうあ者や声がでない人が、
手信号を知らない人にする様である。

四時間目の臨時の古文の時間は自習となる。